

授業科目	理学療法評価学演習				
担当者	牧之瀬一博, 田坂厚志, 相原一貴 (すべて実務経験者)				(オムニバス)
実務経験者の概要	牧之瀬一博 (理学療法士として慢性期医療施設, 通所リハ, 訪問リハなどで10年の実務経験) 田坂厚志 (理学療法士として, 病院や介護保健施設等での実務経験あり) 相原一貴 (理学療法士として, 病院や介護保健施設等での実務経験あり)				
学科名	理学療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

3年後期で行う理学療法評価学演習は、臨床場面で求められる理学療法評価の思考過程、評価技能の理解を目指す。特に、代表的な疾患に対する病態の理解から評価の選択などの臨床思考過程を学び、症例像に合わせた実技までを体系的に学ぶ。

また、実際の症例の動画を用いて、動作観察・分析の思考過程をトレーニングする。

これらの実施を通して、総合臨床実習に向けた臨床思考能力及び評価方法をトレーニングする場とする。

■ 到達目標

- ・代表的な疾患に対して、障害像を理解し説明できる。
- ・代表的な疾患に対して、障害像を踏まえた理学療法評価を選択できる。
- ・代表的な疾患に対して、障害像を踏まえた評価方法を理解し説明できる。
- ・代表的な疾患に対して、評価結果から問題点を抽出できる。
- ・動作の観察から逸脱動作を複数抽出できる。
- ・逸脱動作から複数の機能障害を推測する事ができる。
- ・総合臨床実習に向けた基本的な評価内容を理解し説明できる。
- ・グループでの学修を通して、協同的な活動に参加し、クラス全体の能力向上に寄与することが出来る。

■ 授業計画

- 第1回 理学療法評価学演習の目指すところ (症候障害学ならびにクリニカル・リーズニング)
理学療法評価の思考過程 (Top down 評価と Bottom up 評価)
牧之瀬一博 (実務経験者)
- 第2回 脳血管症例に対する臨床思考過程, 評価方法, 統合解釈
牧之瀬一博 (実務経験者)
- 第3回 脳血管症例に対する臨床思考過程, 評価方法, 統合解釈
牧之瀬一博 (実務経験者)
- 第4回 神経変性疾患 (パーキンソン病など) 症例に対する臨床思考過程, 評価方法, 統合解釈
牧之瀬一博 (実務経験者)
- 第5回 神経変性疾患 (パーキンソン病など) 症例に対する臨床思考過程, 評価方法, 統合解釈
牧之瀬一博 (実務経験者)
- 第6回 運動器疾患 (腰椎ヘルニアなど) 症例に対する臨床思考過程, 評価方法, 統合解釈
田坂厚志 (実務経験者)
- 第7回 運動器疾患 (腰椎ヘルニアなど) 症例に対する臨床思考過程, 評価方法, 統合解釈
田坂厚志 (実務経験者)
- 第8回 運動器疾患 (大腿骨頸部骨折など) 症例に対する臨床思考過程, 評価方法, 統合解釈
相原一貴 (実務経験者)
- 第9回 運動器疾患 (大腿骨頸部骨折など) 症例に対する臨床思考過程, 評価方法, 統合解釈
相原一貴 (実務経験者)
- 第10回 動作観察・分析① (逸脱動作を抽出する)
牧之瀬一博 (実務経験者)
- 第11回 動作観察・分析② (逸脱動作から機能障害を推論する)
牧之瀬一博 (実務経験者)

- 第12回 動作観察・分析③（逸脱動作から機能障害を推論する）
牧之瀬一博（実務経験者）
- 第13回 動作観察・分析④（逸脱動作から機能障害を推論する）
牧之瀬一博（実務経験者）
- 第14回 総合臨床実習に向けた演習①（レポートなどの記載方法・Daily note の記載方法）
牧之瀬一博（実務経験者）
- 第15回 総合臨床実習に向けた演習②（レポートなどの記載方法・Daily note の記載方法）
牧之瀬一博（実務経験者）

■ 評価方法

提出課題（30%）、科目試験〔筆記試験〕（70%）

出席：学生の心得で認められていない欠席や遅刻については減点する（欠席：-4点、遅刻：-2点）

ただし、大学への出席後速やかに届けが提出されればこの限りではない。

また、不良な学習態度（提出物の不備、必要な資料・教科書の忘れなど）は減点対象（1回につき-5点）とする。

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

理学療法評価学演習は理学療法評価学の総まとめである。この科目を履修し終える頃には、評価過程を独力で実施出来る状態となることが求められる。その為、授業時間外の学修にも真摯に臨むこと。

予習に関しては都度必要な内容について提示する。

第2～9回の講義においては、それぞれの疾患の病態や臨床症状についての理解が求められる。臨床神経学や整形外科学での講義内容について復習して講義に臨むこと。また、講義後の復習課題などについても真摯に取り組むこと。

第10～13回の講義については、教科書『観察による歩行分析』を用いた学習を行った上で受講して下さい。歩行時の関節運動がイメージ出来、また筋活動が説明できるようになる事が大切です。異常歩行についてもその成り立ちを含めて説明できるようになって下さい。特に、こういった運動分析が苦手な学生は、まず基本的な解剖（筋の走行）・運動学（筋の作用）について理解度を確認する必要がある。これらの基本が押さえられていれば、繰り返しの思考のトレーニングが必要である。

■ 教科書

書名：標準理学療法学 専門分野 理学療法 臨床実習とケーススタディ

著者名：鶴見隆正，辻下守弘（編集）

出版社：医学書院

書名：3日間で行う理学療法臨床評価プランニング

著者名：中山恭秀（編集）

出版社：南江堂

書名：観察による歩行分析

著者名：月城慶一，他（訳）

出版社：医学書院

■ 参考図書

書名：理学療法評価学

著者名：松澤正，江口勝彦

出版社：金原出版

書名：標準理学療法学 専門分野 理学療法評価学

著者名：内山靖（編集）

出版社：医学書院

書名：新・徒手筋力検査法

著者名：津山直一，他（訳）

出版社：共同医書出版

書名：神経診察クローズアップ 正しい病巣診断のコツ

著者名：鈴木則宏（編集）

出版社：メジカルレビュー社

書名：基礎運動学

著者名：中村隆一，斎藤宏，長崎浩

出版社：医歯薬出版

書名：症候障害学序説 理学療法の臨床思考過程モデル

著者名：内山 靖

出版社：文光堂

書名：理学療法臨床実習サポートブック

著者名：岡田 慎一郎／上村 忠正／永井 絢也／長谷川 真人／村上 京子／守澤 幸晃

出版社：医学書院

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって